

センシング技術を活用した若狭牛の効率的な増産技術の確立(H30~R4年度)

現状

若狭子牛の不足

【現状】

・若狭子牛を増やすため、受精卵移植(ET)の産子を増やしたい

課題

ET産子を増やすためには？

【方法】①発情不明瞭牛にも適期移植
②分娩事故による損耗を防ぐ

【対策と問題点】

①発情観察を強化し、移植牛を増加
→ 発情観察に労力をかけられない!!

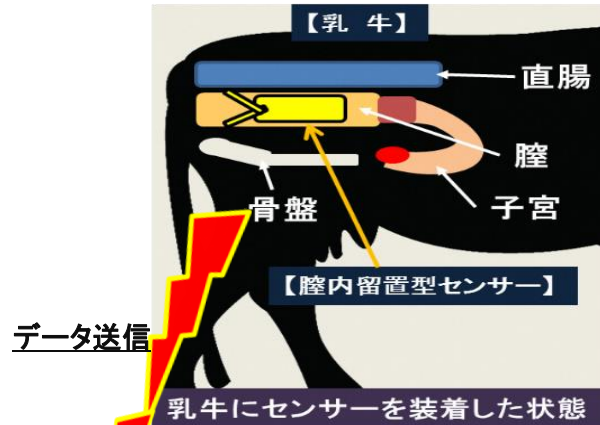
②正確な分娩時刻を予測し、分娩事故を防止
→ 分娩時刻の正確な予測が困難!!

そこで……

センサーを活用し効率良く発情の確認や分娩時刻の予測ができないか？

内容

○センサーを開発し、生体シグナルを収集
→ 発情の状態や分娩との関係を明らかに



結果

- ①発情発見率が向上
→ 受精卵移植数が増加
- ②適切な分娩予測が可能に
→ 分娩事故の低減

若狭子牛の増頭

期待される効果

<ET産子の増加>

移植数の増加による若狭子牛の増頭
・150頭→250頭(+100頭)

若狭子牛販売額

100頭×70万円=7,000万円の増